

北海道アウトドアガイド

育成標準カリキュラム

【 基 礎 分 野 】

育 成 目 的

「北海道アウトドアガイド」に共通する必要最低限の心構え、知識及び技術を修得させることを目的とする。

<理念・倫理>

ガイド等の役割・責任 2時間以上	目 標	○ 「北海道アウトドアガイド」として責任、役割、使命を理解する。
	指導上の狙い	○ 北海道アウトドアガイドとして役割を理解し、ガイド等を行うフィールドで責任のある行動をとることができるようにする。
	履 修 項 目	1 北海道アウトドアガイドの役割・責任 2 北海道アウトドアガイドに求められる資質
	履 修 方 法	座学

<自然の理解・配慮>

動植物に関する知識 4時間以上	目 標	○ 北海道に生息する代表的な動植物を理解するとともに、自然保護を巡る問題を理解する。
	指導上の狙い	1 北海道に生息する動植物の代表的なものを理解させる。 2 絶滅が危惧される種について理解させる。 3 移入種、帰化植物の代表的なものについて理解させる。 4 北海道における自然保護を巡る問題について理解させる。 5 地球環境問題について用語、概要を理解させる。
	履 修 項 目	1 北海道に生息する動植物に関する知識 2 絶滅が危惧される種の保存に関する知識 3 移入種、帰化植物 4 北海道における自然保護を巡る問題 5 地球環境問題に関する知識
自然に配慮したマナー・モラル 4時間以上	目 標	○ 自然の体系的な仕組みを知り、自然に配慮するためのマナーやモラルを理解する。
	指導上の狙い	1 野生動物との付き合い方を理解させる。 2 植物の保護・保全方法について理解させる。 3 山岳における問題と、自然の中でのゴミ・尿処理方法を理解させる。
	履 修 項 目	1 野生動物との付き合い方 ・ 注意すべき動物、控えるべき行動など 2 植物の保護・保全方法 3 山岳における問題 ・ ゴミ処理、トイレ・尿尿、登山道浸食、高山植物盗掘など
	履 修 方 法	座学

<北海道学>

北海道に関する総合知識 12時間以上	目 標	○ 北海道の歴史・文化、産業構造など、北海道に関する基礎的な知識を有する。
	指導上の狙い	1 北海道の通史について理解させる。 2 先住民（アイヌ民族）の歴史と文化、アイヌ語と地名の関係を理解させる 3 北海道の地理の概要について理解させる。 4 北海道の衣食住とその特色について理解させる 5 北海道の産業について理解させる。
	履 修 項 目	1 北海道の通史 ・ 北方民族との交流、松前藩、開拓時代、現代史など 2 先住民（アイヌ民族） ・ 歴史と文化、アイヌ語と地名 3 北海道の地理（概要） ・ 主要な山、川、湖、平野など 4 北海道の衣食住 5 北海道の産業
	履 修 方 法	座学

<アウトドア関係法令>

アウトドア関連法令に関する知識 7時間以上	目 標	○ アウトドア活動を行う上で、身につけるべき主要な法令を理解する。
	指導上の狙い	○ アウトドア活動に伴う関連法令、条例等の名称やその内容について理解させる。
	履 修 項 目	1 アウトドア活動に伴う関連法令、条例等 ・自然公園法、自然環境等保安法、鳥獣保護及び狩猟に関する法律、絶滅の恐れのある種の保存に関する法律、文化財保護法、森林法、河川法、北海道自然環境等保安条例など
	履 修 方 法	座学
過去の主要事故・判例 3時間以上	目 標	○ アウトドア活動に伴う、過去の主要事故事例に関する代表的事例を知り、ガイドの法的責任を理解する。
	指導上の狙い	1 ガイドが負う民事上の責任について理解させる。 2 ガイドが負う刑事上の責任について理解させる。 3 道内外の事故事例、判例について理解する。
	履 修 項 目	1 民事上の責任 2 刑事上の責任 3 道内外の主要事故事例・判例に関する知識
	履 修 方 法	座学

<リスクマネジメント>

危険の予測・回避手法 4時間以上	目 標	○ ガイド行為に伴う様々な危険の発生要因（所在）を理解する。
	指導上の狙い	1 危険な動物、昆虫、植物、自然現象への対応について理解させる。 2 危険予測・回避手法と事業の実施手法について理解させる。
	履 修 項 目	1 自然界における危険の所在 ・動物、昆虫（シカ、蛇、犬、スズメバチ、キツネ、毒蛾、クモ） ・自然現象（落雷、落石、土砂崩れ、雪崩） 2 危険予測・回避手法と事業の実施
	履 修 方 法	座学
ヒグマに関する知見（基礎） 2時間以上	目 標	○ ヒグマの生態及び行動特性を知り、危険時の対応方法を理解する。
	指導上の狙い	1 北海道におけるヒグマの生息地について理解させる。 2 ヒグマの生態、行動特性について理解させる。 3 ヒグマからの回避策について理解させる。
	履 修 項 目	1 北海道の自然とヒグマの地位 ・ヒグマの分布 2 ヒグマの生態・行動特性 ・ヒグマの食性 3 回避策 ・クマ鈴、クマ撃退スプレーなどの効果 ・調理、残飯処理の方法 ・ヒグマに遭遇した場合
	履 修 方 法	座学
応急処置 7時間以上	目 標	○ 事故等の発生時に参加者の安全確保、応急措置など、適切な対応ができる。
	指導上の狙い	1 外傷その他の症状への対処方法を理解させる。 2 基礎的な応急処置を行うことができる。 3 主な救急用品について理解させる。
	履 修 項 目	1 基礎的な対処方法 ・外傷（擦過傷、裂傷、やけど、凍傷、打撲、骨折、脱臼、捻挫など） ・その他（低体温症、ショック症状、おぼれなど） 2 基礎的な応急処置 ・テーピング、三角巾、副木、包帯など 3 救急用品 ・必要な薬剤と救急用品
	履 修 方 法	座学及び実技

救命救急技術 5時間以上	目 標	○ 適切な救命救急技術を実行できる。
	指導上の狙い	○ 心肺蘇生術（心臓マッサージ、人工呼吸）ができる。
	履 修 項 目	1 心肺蘇生術 ・心臓マッサージ、人工呼吸
	履 修 方 法	座学及び実技
保険に関する知識 2時間以上	目 標	○ アウトドア活動に関連する保険の内容を理解する。
	指導上の狙い	1 個人加入保険の種類、手続きについて理解させる。 2 団体加入保険の種類、手続きについて理解させる。
	履 修 項 目	1 個人加入保険 ・レクリエーション傷害保険、スポーツ安全保険 2 団体加入保険 ・団体傷害保険、施設賠償責任保険
	履 修 方 法	座学
公的機関との連携 2時間以上	目 標	○ 事故発生時や救助必要時の適切な対応手順を理解する。
	指導上の狙い	1 事故発生時の対応手順を理解させる。 2 救助時の対応を理解させる。
	履 修 項 目	1 事故発生時の対応手順 ・緊急連絡、遭難者救護、連絡方法 2 救助の対応 ・公的機関との連携
	履 修 方 法	座学

<野外行動技術>

地形図に関する知識 2時間以上	目 標	○ 野外で安全に行動するための地形図の知識を理解する。
	指導上の狙い	1 地図読みに必要な道具について理解させる。 2 地形図の概要を理解させる。 3 地図の基本的な読み方を理解させる。 4 地図読みのポイントを理解させる。 5 現在位置の把握方法を理解させる。 6 コンパスの使用方法を理解させる。
	履 修 項 目	1 地形図読みに必要な道具 ・地形図、コンパス 2 地形図の概要 ・北極と磁北、緯度と経度、等高線 3 地図の読み方 ・各種記号、距離の測定、尾根と谷 4 地図読みのポイント 5 現在位置の把握方法 コンパスの使用方法
	履 修 方 法	座学
気象に関する知識 0時間以上	目 標	○ 野外で安全に行動するための気象に関する知識を理解する。
	指導上の狙い	1 気象図の読み方を理解させる。 2 気象図の作成方法を理解させる。 3 気温と高度の関係、体感温度について理解させる。 4 地理環境別の気象変化の特徴について理解させる。 5 様々な気象現象について理解させる。 6 気圧についての基本的な知識を理解させる。 7 北海道の気象の特徴について理解させる。 8 天気予測方法について理解させる。
	履 修 項 目	1 気象図の読み方 ・各種記号、等圧線、風向、風速 2 気象図の作成方法 3 気温 ・気温と高度、体感温度 4 気象変化の特徴 ・山岳地帯、湖沼、河川、海洋

気象に関する知識 (つづき)	履修項目 (つづき)	5 様々な気象現象 ・風、雨、霧、雪、雷、観望天気 6 気圧 ・低気圧、高気圧、気団、気圧配置 7 北海道の気象の特徴 ・季節毎の気象の特徴 8 天気予測 ・風向、風速、温度変化
	履修方法	座学

<ガイド技術>

参加者の理解 把握 2時間以上	目 標	○ 参加者に応じた対応のあり方を知り、参加者に配慮すべき事柄について理解する。
	指導上の狙い	○ 参加者の把握と配慮について理解させる。
	履修項目	1 自己の理解 ・自己受容、自己認知、自己開示、性格、体質、個性 2 対象者の理解 ・対象となる参加者を知る ・年代別特性 3 障害者、高齢者、児童への配慮
	履修方法	座学
ガイド等の位置 2時間以上	目 標	○ ガイドを行う上で、適切な引率方法とリーダーシップの必要性について理解する。
	指導上の狙い	○ ガイドの適切な説明位置、集団の引率方法、リーダーシップについて理解させる。
	履修項目	1 フィールドに対応した適切な説明位置 2 集団の引率方法 ・集団の行動特性(5人程度、10人以上) 3 リーダーシップ
	履修方法	座学
コミュニケーション技法 2時間以上	目 標	○ ガイドとしてのコミュニケーションのあり方を理解する。
	指導上の狙い	○ コミュニケーション技法について理解させる。
	履修項目	1 分かり易く説明する基本話法
	履修方法	座学
ホスピタリティ 2時間以上	目 標	○ 参加者にとって、快適で満足度の高いガイドサービスが提供できるとともに、参加者を理解する力を有する。
	指導上の狙い	○ ホスピタリティについて理解させる。
	履修項目	1 ホスピタリティ 2 基本的な接客マナー 3 正しい敬語の使用法
	履修方法	座学

総時間数	70時間以上
------	--------